

令和5年度 第1回精華町障害者基本計画策定委員会 議事概要

| | |
|-----|---|
| 日時 | 令和5年8月10日(木) 午後1時30分から |
| 場所 | 精華町立図書館 1階 集会室 |
| 参加者 | 奥委員、坂東委員、林委員、吉村委員、地主委員、市橋委員、藤田委員、杉山委員、岩井委員、樽井委員、吉川委員、河股委員、長谷川委員、畔柳委員、細見委員、傍島委員 ※欠席委員：大上委員、柘植委員 健康福祉環境部長 岩前 事務局：森田・中川 コンサル業者：ジャパンインターナショナル総合研究所 片山 |
| 議事 | (1) 「精華町第3次障害者基本計画」及び「第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画」策定の概要について (2) 障害者基本計画に関するアンケート結果について (3) 計画策定に向けたスケジュール・ヒアリングについて |

1. 開会

健康福祉環境部 岩前部長よりあいさつ

2. 町長あいさつ

3. 策定委員の委嘱・紹介

委員の委嘱・紹介が行われた。

委員2名が欠席であり、条例（精華町障害者基本計画策定委員会設置条例）に基づき、会議の成立を確認した。

「精華町審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、会議公開、委員名を示して記録を作成公表することについて、了承された。

4. 会長・副会長の選出

委員の互選により会長に樽井委員、副会長に地主委員が選出された。

5. 議事

<事務局より議事(1)～(3)について説明>

吉村委員

精神障害者の手帳所持者が増加しているという報告があったが、その背景について教えていただきたい。

事務局

3級相当の方が非常に多く、背景については十分に精査されていない。手帳と併せて自立支援医療制度の精神通院医療の利用も増加しているため、精神科での定期的な受診、治療が必要な方が増えている。

会長

アンケート調査結果報告書の5ページで、精神障害者保健福祉手帳所持者が73名ということである。確かに増加はしているが、数字自体が少ないので、この変動がどうなっているのかを知りたい。また、精神の場合、医療機関を受診して診断を受けている方がすべて手帳を申請して所持しているわけではなく、身体、知的に比べると相対的に少ない。医療機関の通院だけ、自立支援医療の利用だけで、福祉サービスを必要としない方もいると思われるので、数字に関しては細かく見ていく必要があると思う。ニーズがあって手帳を取得する方が増えているのは事実なので、次回以降の委員会で、精神障害者の方で福祉サービスを必要としている方が増えている、それはどのようなサービスなのかを踏まえて、計画に反映させていければと思う。

一般の方からも広くご意見を頂きたいという委員会の趣旨があるので、一般公募で来られた方にご発言いただきたい。

吉川委員

自身の子どもは生まれた時から難病を持っており、療育手帳を持って21年になる。中学までは地域の学校の支援学級で、高等部から支援学校に移った。

アンケート結果の差別の部分で、学校別の集計結果では、普通学校より支援学校のほうが対象者数が少ないため、あまり数字が上がってきていないと思う。私の子どもが地域の学校に通っている時は、配慮をいただいていると感じていた。学校で障害のある児童がうちの子どもだけで、保育所から一緒だったお子さんもたくさんいたためか、運動会、修学旅行、校外学習など何も言わなくても子ども同士で配慮してくれていた。

普通学校より支援学校の方が配慮が足りなかった印象を持っていたので、このアンケート結果は、私の中では不思議に感じる。

会長

特に一般公募の委員さんには、実体験や率直な思いをご発言いただき、専門家の委員の方にもご検討いただいて、より良い計画となるよう反映していけたらと思う。貴重なご意見感謝する。

林委員

福祉に13年ほど携わっていた。就労で、障害特性に合った仕事内容を見極めたり、働き方の支援、その方の特性を伸ばすために、コミュニケーションを取る場がほしいと思う。また、行政から、就労に関する広報がないと感じる。地域の障害をお持ちの方が、さまざまな形で健常者の方と同じように集える場があるといいと思う。

畔柳委員

学校においては、子ども同士の関わりの中でさまざまな事象が起きるので、実態把握は丁寧に

行わなければならないと改めて感じた。

コロナ禍により進路や人権に関わるようなところで、丁寧にまとめていただき、支援学校の実態がよくわかる資料だと思うが、支援学校は6歳～18歳までの年齢幅があるので、抱える悩みが年によって変わってくる。

高等部になると、進路指導が丁寧に職場実習もあるため、自分事として保護者も子どもたちも取り組みやすいが、小学部低学年は、生活面など今ある課題に重点を置くため、将来のことが見えにくかったり、漠然として見通しが持ちにくかったりして、何となく不安だけよくわからないというところがあると思う。コロナの影響もあったとは思いますが、保護者同士のつながりも希薄になってきており、保護者同士で将来像を語り合う場面が少なくなった影響により、漠然とした不安が大きくなっているのではないかと思う。友達同士の「地域の行事や集まり」も少なくなった。

小学部の実態を見ると、障害種別や年齢によって悩みが変わってくるなど、学校の中だけ見ても、障害や年齢によって数字が変わってくるのではないかと思った。

会長

吉川委員、吉村委員、畔柳委員の意見を、今後、どのような形で計画に落とし込んでいくか。例えば、前回の基本計画の差別に該当する部分の文言や具体的な目標、理念的な部分に、次回の計画では、差別の実態はまだなくなっていないという意見を、より力のある文言に変えていく提案につながる議論ができればと思う。基本計画か、数値目標に関する部分に落とし込むのかもご意見を頂き、最終的にどう整理するのかを意識しながら、次回以降の作業ができればと思う。

細見委員

この秋に、日帰り旅行でUSJに行く予定だが、狭い所が苦手だけがをしたこともあるので、USJの人混みの中をどのように歩けばいいかを考えている。不安や心配もあるが、3年ぶりなので楽しみにしている。

会長

生活のさまざまな場面で、実際サービスを利用される当事者の方のご意見は参考になる。

副会長

調査結果の疑問点については、支援学校生が約12人しか回答していないため、みんなの声かどうかはわからない。支援学校とそうでない学校で分けているが、支援学級と普通学級も含めた数字で、通常学級の中で差別を受けたと保護者が感じていることも含めた数字のため、吉川委員の経験と合致しないところが出てきているかもしれない。

親の会は、当時「支援学校生親の会」しかなく、最重度の子から軽度の子までの範囲なので、軽度の保護者が「いろいろわかるし、できる」と見られやすかったが、今は特別支援学校、支援学級、普通学級、幼児の保護者も含めた全部の親の会となっている。

坂東委員

基本計画と福祉計画を同時に策定することはとてもタイトな気がする。どのような経緯でこう

なったかを教えていただきたい。

事務局

内部でも計画期間の検討を行ったが、近隣市町村では計画期間を合わせていると聞く。基本計画に基づいて福祉計画が作られるのであれば、基本計画と福祉計画がずれてくるのはどうなのかという意見があり、基本計画に対して、2回の福祉計画で基本計画の理念、方向性を実現していくための目標値を定めるほうが、見やすく分かりやすいのではないかとということで、今回、6年計画で見直すこととなった。

6. そのほか

特になし

7. 閉会

事務局

次回委員会の日程について

第2回策定委員会

日時 令和5年10月頃

場所 精華町役場

事項 計画骨子案について